

# 令和 3 年度 県立つくば工科高等学校自己評価表

目指す学校像	「豊かな人間性と科学する心をそだてる」を教育目標に、心身共に健全で豊かな人間性を持ち、産業社会のどのような変化にも柔軟に対応できる人材の育成と地域・民主社会に貢献できる人材の育成をとおして、地域に密着した開かれた専門高校を目指す。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>学習面では、基礎学力の向上を目的とした学校設定科目を展開し、効果的な運用を行った。「課題研究」では、発表を含め工夫改善が各所にみられた。より探究的な取り組みに進化させた。</p>	1 学習指導の充実	① 教員の授業力の向上、生徒の基礎学力の定着を図る ② 専門教育の充実	B
<p>生徒指導では、基本的な生活習慣やマナー向上のためのきめ細やかな指導が浸透してきており、校内も落ち着いた状態になっている。</p>	2 生徒指導の充実	③ 基本的な生活習慣の確立 ④ 家庭や地域社会、関係機関との連携	B
<p>進路指導では、高い就職内定率を維持している。今後はさらにキャリア教育の指導体制を充実・発展させていく。大学合格者数を増やすための取り組みを充実させたい。学習支援ツールでの指導方法や利用方法の工夫が必要である。</p>	3 特別活動の充実・発展	⑤ 生徒が主役になる特別活動の充実 ⑥ 部活動の活性化	B
<p>部活動では、本校の特色でもある工業系の部活動の活躍が目立った。小人数の部もあるが、加入者を増やし学校の活性化につなげたい。「imamirai手帳」の活用は、生徒に定着してきた。また、タブレット端末等のICT機器を活用した授業の実践及び工夫の推進を図る。</p>	4 進路指導の充実	⑦ キャリア教育の計画的な実施と指導の充実 ⑧ 進路未定生徒ゼロ、及び早期就職内定率100%の早期実現	A
<p>地域行事への参加は、今年度はコロナ禍のためできなかったが、今後は積極的に行いたい。また、保護者や地域社会との連携を強化し、生徒数確保を含め積極的に学校をアピールしていく必要がある。</p>	5 保護者や地域社会との連携	⑨ 保護者とのコミュニケーションと共通理解 ⑩ 地域社会との積極的な連携と本校の広報活動の充実	A
<p>今年度も、茨城県の「チャレンジプロジェクト」で重点校となった。魅力ある学校づくりに資するよう、特色ある活動を推進したい。</p>	6 学習環境の整備	⑪ 綺麗な学校づくり ⑫ 安全安心な学習環境づくり ⑬ 教職員の働き方に関する意識改革	B

別紙様式 2 (高)

三つの方針		具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	技術力・創造性・探究心を備え、未来の社会を切り拓く人財の育成を目指す。	B	B 卒業時に望まれる姿から逆算した、授業等に取り組む目標の設定 教育活動のビジョンを学校外の関係者・諸機関と共有するための体制構築 入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像を明示
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	技術の習得・ものづくりの精神の育成をし、幅広い進路希望を実現する教育課程を編成・実施する。	B	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	ものづくりへの興味・関心を持ち、最後までチャレンジする生徒を求める。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (国語科)	基本的な漢字の読み書きの力を習得させる	課題を充実させ家庭での学習習慣の獲得を目指し、高校生としての基礎を身につけさせる。 ①②③	B	B ・「国語」の基礎学力の定着を図りつつ、特に「話すこと・聞くこと」の学習の充実を図る。 ・新学習指導要領に基づく授業の実施において、咲きの具体的目標を実現できるような評価・授業計画の適切な作成・実施を目指す。
		「NIENIE 蟬」から、新聞に出てくる漢字を習得させる。①②③	B	
	文章の内容を理解する能力を養う	一般的な語句や言葉の意味を知り、語彙力を向上させる。①②	B	
		文章を読んで多くの考えに触れ、自己の思考との比較をさせる。①②	B	
	自己表現力を養う	各種文章の書き方を学び、時と場合に応じて文章で表現させる。①②	A	
		俳句を詠み、「お〜いお茶新俳句大賞」に多くの作品を投稿させる。④	A	
時事問題からの考察力を養う	「NIENIE 蟬」の新聞記事やコラムから時事問題について考察させる。①②④	B		
	他者の視点や考え方を知り、それらを自分の考えに反映させる。①	B		
教科指導 (数学科)	基礎・基本の定着・向上	プリント学習やスタディプログラムの活用などを充実させ、問題演習を重ねることで基礎学力を定着・向上させる。①	B	B ・生徒の基礎学力を定着させるため、義務教育内容の確認を徹底する。 ・数検受検者への指導や進路課外授業など、発展的な指導を充実させる。 ・ICT機器の活用による学習効率の向上を目指す。
	理解度の低い生徒に対する指導の充実	理解度の低い生徒に対して、放課後や長期休業を利用し課外授業を実施する。また、スタディプログラムを活用し、義務教育内容の学び直しを行う。①⑫	A	
	実用数学技能検定試験の活用	実用数学技能検定の積極的な受検を促す。受検生徒に対しては事前に課外等を実施し、合格者の増加を図る。②⑦⑫	B	
	進路課外の充実	進路課外授業を定期的実施し、生徒の個に応じて発展的な内容を扱う。添削指導も実施しながら学力の向上を図る。②⑦⑫	B	
教科指導 (地歴・公民科)	学習への動機付け	授業態度や提出物などを記録し評価に反映させることで、学習に取り組む意欲的な態度を育てる。①②	A	B ・ICT機器を活用した授業の実践 ・新学習指導要領に基づき1学年に導入される地理総合の教授内容の吟味
		授業内容を社会問題や時事問題へとつなげて、実生活と関連して学習できるよう工夫する。①②	A	
	基礎学力の向上	授業内容を生徒の理解度に合わせて精選し、学力が定着するよう促す。①②③	B	
		考査前など、確かな学力が身に付くまで反復学習を心がける。①②③	B	
公民としての資質を養う	討論や感想文など意見交換を活発化し、常識ある社会人としての規範意識や道徳心を養う。①②	B		

別紙様式 2 (高)

		選挙権年齢の引き下げを踏まえ、議会傍聴などの取り組みを通して良識ある公民としての自覚を持たせる。①②	B		
	進学指導の充実	AO入試や小論文指導など、学年や進路指導部とも連携して行い進学率向上を目指す。④	A		
教科指導 (理科)	生きて働く「知識・技能」の習得	高校で学ぶ新しい知識を、中学校までの既習内容と関連付けていくことで、理科の重要概念を理解できるようにする。①	B	B	・来年度1学年での新学習指導要領に基づく授業の実施にあたり、各単元での評価計画を適切に作成・実施を図ることで、左記の具体的目標をより高い水準での達成を実現したい。特に、with コロナにおける観察・実験の適当な実施時期や方法を検討し、生徒の資質・能力を高めたい。
		主張や根拠を効果的に表現できるようにするために、観察や実験を通して、器具の使い方や、表やグラフの活用方法が身に付けられるようにする。①②⑦	B		
	未知の状況にも対応する「思考力・判断力・表現力等」の育成	観察や実験の充実を通して、予想・仮説を設定し、データを考察して規則性や法則性を見いだす力などが育成できるようにする。①②⑦	B		
	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養	学習内容と日常生活や社会との関連を図り、生徒に具体例を考えさせる。①②	B		
		授業プリントなどの活用や提出を通して、生徒が取り組み方を調整したりできるようにする。①③	A		
	学び方や働き方の改革の推進	ICTや外部のコンテンツを活用する。①⑬	A		
		前年度まで蓄積した授業プリントを改善し、理科教員間で共有する。①⑬	A		
教科指導 (英語)	基礎学力の獲得・定着・向上を図る	各学年・教科で基本的な語彙数を増やす。基本的な文法力を養う。簡単な表現を使って英語を話す。小テストなどで確認し定着を図る。①⑦	A	B	・基礎学力の定着を継続して図るとともに、進学希望者の学力向上も目指す。 ・ALTのベース校となったが、ALTを効果的に活用する方法を、いろいろ試しながら探っていく。 ・英検受験なども促していく。
	国際的な事柄に関心を持つ態度を育て、国際人としての視野を養う	ALTとのTeam teaching等を通して、英語による言語活動の機会を増やし、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図る態度を養う。①③	B		
		外国の文化や歴史、国際的な話題にできるだけ多く触れさせ、生徒の視野を広げ、グローバルなコミュニケーション能力の基礎を培う。①⑦	B		
	英語力のある生徒の学力伸長を目指す	英語に関心が高く、またある程度以上の習熟度が認められる生徒に対し、英検受験等を勧めるとともに、希望者を対象に対策課外を行う。⑦⑧	B		
教科指導 (家庭科)	生活者としての生きる力を身につける	生活の主体者という自覚を持たせ、ライフプランニング・キャリアプランニング力を高める。⑤⑦	B	B	・男女共同参画社会や多様性に向けた展開や地域貢献対策として、「認知症サポーター講座」や、赤ちゃん体験はご時世によりできなかったが代替で「イクメン講話」ができた。次年度も体験的な学びとしてゲストティチャー講話を計画したい。
		衣食住の各分野において、安全かつ健康に生活していくための知識と技術について実験実習を交えて学習する。①③	B		
	資源・環境と関わる力をつける	循環型社会への参加を目指して、5RやSDGsの理解をし、社会貢献の術(リサイクル事業や民間企業の取り組み)を知ることにより社会が身近であることを知る。②④	B		
	消費者としての自覚を持ち計画的な金銭管理能力をつける	「18歳成人年齢引き下げ」施行(2022年4月1日)を目前に、未成年と成人の違いに着目し、正しい契約を遂行できるよう実習を交えて学習する。①⑦	A		
	多様な生き方を学ぶ	自立とは何かを考えさせ、現代多様化する家族の形やLGBTsへの理解を深める。②④	A		
教科指導 (保健体育)	基礎体力の向上	基礎体力の向上。①	B	B	タブレット端末等のICT機器を活用した授業の実践及び工夫。実践例の情報共有。
		体力を高める運動を実践する。①	B		
	運動技能の向上	各単元の基本的な運動技能について指導する。①②	B		
		ゲームを通じて身につけた運動技能を向上させる。①②	A		

別紙様式2 (高)

	集団行動の確立	集合、整列、方向転換、隊列変化等の集団行動を通して、集団の中の個としての自覚を促す。①	A		
		号令、挨拶、言葉遣い等、基本的な礼儀を指導して、マナーを身につけさせる。①③	A		
	健康問題の解決	保健の授業で様々な健康問題を取り上げ、その解決法を考えさせる。①③	A		
		健康や安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理、改善する能力を育てる。①③	B		
教科指導 (芸術・美術)	学習指導の充実	生徒の興味・関心に沿った題材設定と、実態に合わせた指導を行う。①	A	B	感染拡大防止のための行事縮小に伴い、話し合いを含めた鑑賞活動や作品の発表の機会を縮小せざるを得なかった。様々な状況に対応しながら、生徒の学びを最大限に期待できるような学習方法を検討したい。
		創造的な表現や物事の造形的な見方・考え方を身につけさせる。④	A		
	生徒指導の充実	学校や学級に愛着を持てるような制作活動や展示を行う。⑧	B		
		作品制作において、言語活動を通して改善や向上の意識を育てる。⑩	A		
	特別活動の充実	学校行事等で、美術で身につけた知識や技術を活かした活動を促す。⑤	B		
	進路指導の充実	自分自身を見つめ、考えることができる課題設定をする。⑦	A		
	保護者や地域社会との連携	地域社会との積極的に連携できるよう、公募展やコンクールに積極的に参加させる。⑨⑩	B		
学習環境の整備	他者の視点に立って考える機会を設け、公共の精神を養う。⑪⑫	A			
教科指導 (機械科)	学習指導の充実	学習時間の確保と学習習慣の確立を図り、基礎学力の定着・向上に努める。①	A	B	・学習不適応生徒に対する支援は工夫を加え、継続していく。具体的には、補習授業や課題学習などの充実を図る。 ・工具の片付け、清掃に関して徹底して実行する。
		学習不適応生徒の個別指導を充実し、適切な支援に努める。①	B		
		資格取得指導の工夫・改善を図り、合格率の向上に努める。②	A		
		専門教科と実習の関連性を高め、生徒の知識・技術の習得に努める。①②	B		
	生徒指導の充実	授業時間の確保のため、始業チャイムで着席させ、すぐに授業が実施できる指導を行う。③	B		
		実習室や教室で服装等の身だしなみをきちんとさせ、基本的生活習慣を身につけさせる指導を行い、安全面や提出物等のルールやマナーを厳守する意識を育てる。③	B		
	進路指導の充実	生徒の進路希望に沿ったきめ細やかな指導や面接指導等を充実させて、生徒の進路決定までの助言・指導を行う。また、機械科独自の校外学習等を通し、生徒の進路意識を向上させる。②④⑦	B		
	地域社会との連携	各種イベントへの参加等を通して、積極的に機械科の紹介をしていく。⑩	B		
	学習環境の整備	実習時における清掃の徹底とゴミ分別を指導し、室内環境に関する衛生面の向上と整理整頓する意識を育てる。⑪⑫	C		
	教科指導 (ロボット 工学科)	学習指導の充実	授業・実習の質の向上と評価方法の研究を行う。①		
授業・実習を通じて生徒の学力定着と技能・技術の向上を図る。②			A		
生徒指導の充実		挨拶励行や時間規律等の基本的生活習慣及びマナーの定着を図る。③	A		
		服装・頭髪等の規律励行と作業安全教育の徹底をする。③⑫	A		
進路指導の充実		資格試験の合格率向上を図る。②	B		
		キャリア教育に通じる進路指導を行う。⑦	B		

別紙様式 2 (高)

	地域社会との連携	保護者や地域への情報発信と共有を推進する。④⑨	A		
		地域イベントや出前授業など地域連携への積極的な参加を図る。⑤⑩	B		
	学習環境の整備	教員・生徒共に実習室の整理・整頓・清掃を順守する。⑪⑫	A		
		効率的で効果的な指導や業務のスリム化を検証する。⑬	B		
教科指導 (電気電子科)	学習指導の充実	各教科において、基礎学力の定着と向上に努め、学習習慣の確立を図る。①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に基づき、1・2学年に導入される「電気回路」の教授内容について、各単元での評価計画を適切に作成し、目標の実現を図る。</li> <li>・コロナ禍における実習・課題研究の適切な実施方法を検討し、生徒の資質・能力を高める。</li> <li>・ICT機器を高いレベルで活用した授業を実践する。</li> </ul>
		生徒が感心・興味を持ち、自ら取り組める授業のための教材研究を推進する。①②	B		
	基本的生活習慣の確立	実習等の集合時間・提出物の締め切り等の厳守。ルールやマナーを身につけさせる。②③	B		
	作業安全教育の推進	社会人としての資質を身につけさせ、正しい服装等で実習が出来るように指導し、作業安全のための姿勢をつくる。⑫	A		
		実習室等の整理整頓・節電を徹底する。⑪⑫	A		
	資格試験の合格率向上	各専門科目授業・課外指導・外部講師講習会等と連携を図りながら、全国平均以上の合格率を目指す。①②	A		
進路指導の充実	進路未定生徒ゼロ、及び早期就職内定率100%の実現。⑧	A			
	生徒の進路希望に沿った指導の充実。⑦⑧	A			
教科指導 (建築技術科)	学習指導の充実	各教科において、学習基礎力の定着を図る。また、実習や製図においてグループ学習が行えるような班編成をし、個々の能力に応じた授業を展開する。①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設業への就職・進学率増建設業に進学・就職する生徒が昨年度より10%程度減少したので、建築に興味関心を持ってもらうように、ガイダンスや体験学習など外部との連携を密にする。</li> <li>・現校と新校の対応両立建築技術科の生徒に対し疎かにならないようにする。また、新校では指定科目修得単位数が取れず、建築士の受検資格が無くなるので領域では何を学ばせるかを明確にし、準備をしていく。</li> </ul>
		「建築」に興味・感心を持ち、自ら考え意欲的に取り組む生徒を育てる指導を目指し、専門職種[建設業]の就職率を向上させる。①②⑧	B		
		外部団体との連携を図り、職業体験する機会を設ける。②④⑩	B		
	基本的生活習慣の確立	実習等の集合時間・作品提出物の締め切り等の厳守。③	B		
		挨拶・マナーの実践徹底。③	A		
	作業安全教育の推進	社会人としての資質を身につけさせ、正しい服装等で実習が出来るように指導し、作業安全のための姿勢をつくる。⑫	B		
		製図室・実習室等の整理整頓・節電を徹底する。⑪⑫	A		
	資格試験の合格率向上	各専門科目授業、課外指導、外部講師講習会等で連携を図り、昨年度よりも合格率が上がるよう目指す。①②	B		
		ジュニアマイスター取得者を昨年度より増やす。②	B		
	進路指導の充実	生徒の進路希望に沿った指導の充実。⑦	A		
進路未定生徒ゼロ、及び早期就職内定率100%の実現。⑧		B			

別紙様式 2 (高)

校務分掌 (教務部)	入学希望者数の確保	中学校や学習塾訪問 各種学校説明会の開催。⑩	A	B	新校に向けて、教育課程の編成・内規の改正・シラバスの作成・学校説明会の実施方法の検討・スクールガイドの構成など次年度は計画・実施に向けて課題が沢山ある。
		「スクールガイド」や「工科タイムス」など広報誌の発行、生徒作品展（中学校）の継続実施。⑩	A		
	基礎学力の定着・向上	基礎学力向上委員会との連携による、学校設定科目『工科タイム』の運用と検討。①	B		
		特別な配慮を要する生徒への対応策。校内連携の強化。①④⑫	B		
	学校運営の円滑化	定期考査、特編授業の時間割や年間、月間行事予定表などの作成。⑫	A		
		シラバス、学校要覧などの作成、教具、教材の準備など。⑫	A		
各種データの統計と検証	特色選抜入学生徒、転退学者数、欠席、遅刻日数、学校評価アンケートなど。③⑨	B			
学校改編の具体化	学科改編に向けて学校w t の取り組み。①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫	B			
校務分掌 (進路指導部)	高校3年間の明確な進路指導法の計画・立案・実施	高校3年間で俯瞰し、進路実現に向け、高校3年間の目標の持ち方・具体化の方法を検討・計画・実施させる。⑦⑧⑫	B	B	新型コロナウイルスの影響で制限がかかり、対外的な活動は思うように出来なかった。求人数においては、飲食系・接客系企業数は減ったものの、外国人入職者が入ってこないという事で、製造業の高校生求人は堅調であった。例年通りの実績は上げられたものの、採用選考試験に何度も落ちてしまったという生徒もいた。1年の段階から、就職を意識した生活態度と資格取得の重要性を説いていきたい。
		各学年と密に連携し、進路に関わる企画・計画をできる限り積極的に検討・提案し、協働する。⑦⑧⑫	B		
		進路情報を収集・精査し、生徒や教員がより効果的に活用できるように努める。⑦⑧⑫	B		
	企業との連携強化と求人の安定確保	地元企業はもとより、遠隔地域の企業への働きかけを積極的に行う。また、求人エリア・数を拡大する。④⑩⑪	B		
		企業が求める人物像等を分かりやすくまとめ、生徒に還元し、効果的な斡旋を実現する。④⑩⑪	A		
	マナー・コミュニケーション能力向上のための指導推進	第3学年の斡旋就職希望生徒全員にマナトレを実施する。一人一人への適切な指導を行うことで、企業に対し自信をもって推薦できる生徒を育成する。⑦⑧⑨⑬	A		
		1年生は『学校生活の充実』、2年生は『進路選択・実現の準備』、3年生は『進路実現』を各々の目標とし、その実現に向けての指導を図る。⑦⑧⑨⑬	B		
		生徒指導部と連携し、普段の学校生活での『挨拶』『5分前行動』『校則遵守』等マナーやコミュニケーションへの意識づけを行う。また、保護者とも連携して、これらを積極的に推していく。⑦⑧⑨⑬	B		
	基礎学力向上のための指導の検討・実施	進学・就職双方に対応すべく、『スタディプログラム』の積極的運用を基礎学力委員会ならびに関係各所に促す。①⑤⑥⑫⑬	A		
		工業高校生のステータスである『資格』の有効性を説きつつ、積極的に受験を促していく。工業高校生としてのモチベーションアップを図る。①⑤⑥⑫⑬。	B		
進路活動の積極的発信	進路の活動内容を積極的に発信していく。そのために、各学年・各科、各校務分掌と情報を共有し連携していく。④⑨⑩⑬	A			
	本校への志願者を更に増やすために、魅力ある『つくば工科』をどんどんアピールしていく。『出口指導』だけではなく『プロセス指導』に重点を置き、結果を出していくことに力を注ぐ。結果は逐次HP等で知らせる。④⑨⑩⑬	B			

別紙様式 2 (高)

校務分掌 (生徒指導部)	学校生活における安全確保	貴重品及び自転車等について管理施錠の徹底を図り、生徒個人の物品管理に対する意識向上を図る。⑫	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者の価値観の多様化の中で、コロナ禍の影響で集会等を通じて生徒全体に對面で話す機会が減っており、服装やマナーなど教員間の連携強化と情報を共有した生徒指導体制の確立が課題である。</li> <li>・学校改編にともなう校内内規の見直しについての検討や新制服の作成・広報等を進める。</li> </ul>
		各種講演会を実施し、事件や事故に関する注意喚起と予防を図る。⑨⑫	B		
		校内・外の巡回を定期的に行い、生徒の問題行動・交通事故の未然に防止に努める。⑪⑫	B		
		学期ごとに自転車点検を実施し、登録番号・施錠の確認をすることで盗難防止と車両管理の重要性を意識させる。⑫	A		
		バイク・自転車通学者に対して安全指導を行い、交通安全の重要性を認識させる。⑫	A		
	高校生さわやかマナーアップの実践	朝の登校指導を行い、挨拶指導を通して生徒と教員間の関係性を深め、マナー向上に努める。⑤⑫	B		
		毎月初めに服装頭髪指導を実施して清潔感のあるクラス経営と担任・副担任と生徒間の交流を深めながらマナー向上を目指す。⑪⑫	B		
	マナー・モラルの向上と校内外の連携	服装・頭髪の改善等について保護者に通知するとともに、学年団との連携をとりながら指導内容の充実を図る。⑨⑪	B		
校内職員と連携を図り、PTA 総会・三者面談等において保護者への協力を依頼しながら生徒に無理のない指導を行う。⑨⑪		B			
校務分掌 (環境厚生部)	安全管理・安全教育の推進	防災訓練を計画・実施し、災害時の適切な行動や安全に対する知識の習得を目指す。③④⑫	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育や健康教育の行事は、形態を変更するなどして状況に応じて柔軟に実施する。</li> <li>・「健康づくり」のための情報発信に務める。</li> </ul>
		防災講話等の実施により、防災に対する意識の向上をはかる。③⑫	B		
		防災計画を立案して、学校全体の安全管理を徹底すると共に、安全点検により学校施設・環境の安全確保に努める。③⑪⑫	A		
	「健康づくり」の推進	健康診断により自分自身の健康状態を把握し、自らの健康を管理する能力を養う。③	B		
		健康講話を計画・実施し、保健指導をはかる。③④	B		
		「健康だより」の発行。③④⑨	B		
	学習環境の整備	清掃の徹底とゴミの分別・軽量化を推進する。③⑪	B		
		清掃用具の点検・充実をはかる。⑪	A		
	教育相談の必要な生徒の迅速な把握と適切な対応	担任や学年・教科担当者との情報交換を密に行い、生徒の状況把握に努める。⑬	B		
		スクールカウンセラー、場合によってはスクールソーシャルワーカーの協力を得て支援活動にあたる。④	B		
		問題を抱えた生徒については、保護者との連携を行い対応する。④⑨	B		
		広報誌（ピアルームプレス）を定期的に発行する。⑫	B		
	スクールカウンセラーや外部機関との連携の推進	スクールカウンセラーによる担任・保護者への助言の場を積極的に設け支援の充実を図る。⑨	B		
		特別支援教育コーディネーターと共に発達障害を持つ生徒への理解・指導の工夫を図る。①	B		
		合理的配慮を要する生徒の指導にあたっては、特別支援教育専門家派遣事業等外部機関との連携を位置づける。④	B		

別紙様式 2 (高)

校務分掌 (図書視聴覚部)	図書室及び図書の利用の促進	図書の購入希望について、積極的な応募を募る。生徒に親しまれ、役に立つ蔵書の充実を図る。また、毎月購入希望を募り、短期間で図書館に新しい蔵書が並べられるように配慮する。①②④	A	B	・図書委員会活動のさらなる向上と放送委員会活動の活性化。
		図書委員にパソコンを用いたカウンター業務を習熟させて、主体的に貸出業務が行えるように指導する。①⑤	A		
		月1回の生徒版図書便りの発行を継続し、生徒が図書館へ足を運ぶきっかけをつくる。⑤	B		
	委員会活動の活性化	図書委員の定期的な活動を指導し、図書の貸出管理などにも参加させて操作を覚えてもらう。それによって、図書室の利用の活性化を図る。④	B		
		放送委員については、学校行事の時に放送機器のセッティング・操作などを中心になって活躍できるように指導していく。⑤⑫	C		
視聴覚室の整備	視聴覚室を職員が有効に活用できるよう整備する。⑫	B			
校務分掌 (特別活動部)	生徒が主役になる特別活動の充実	生徒を主体とした学校行事の企画・運営を通し、生徒の自主的・実践的な態度を育てる。⑤	A	B	コロナ禍における学校行事の実施形態や内容について学校全体でどのように考えていくかが課題である。 また、キャリアパスポートの活用やボランティア活動への参加の促進なども進めていきたい。
		ホームルーム活動や生徒会活動を通し、生徒一人一人に自覚と責任感を培う機会を与える。また、生徒相互の連帯感を深める。⑤	B		
		ボランティア活動(エコキャップやプルタブの回収)に参加することで、社会の一員であるという自覚を持たせると共に豊かな人間性を養う。④⑩⑪	A		
		生徒評議員会を通し、生徒の意識を高め委員会の活性化を図る。⑤	B		
		「キャリアパスポート」を活用し、キャリア教育を推進する。⑦	B		
	部活動の推進	部活動を推進するための体制を学校全体で考えて取り組む。⑥	B		
委員会活動の推進	委員会活動を活性化するために、活動内容・活動時期等の見直し等を含め、体制を学校全体で考えて取り組む。⑤	A			
校務分掌 (渉外部)	PTA活動の活性化	PTA総会への保護者の積極的参加 ④⑨⑩ ・文書の早期配布、出欠確認の徹底 ・緊急情報配信メールの効果的活用・HPでのPR・迅速、丁寧な対応	B	B	・県西地区の幹事校になるにあたり体制の強化を行いたい。 ・コロナ禍におけるPTA行事の精選 ・保護者への積極的な情報発信
		広報活動の積極的実施 ⑩ ・広報誌の発行(年2回) ・行事等のPR(文書、メール、HP)	A		
		研修活動の充実 ⑨⑩ ・研修講座の実施(会員へのPR、工業科との連携、会員相互の交流) ・研修旅行の実施(会員相互の親睦を深め、見聞知識を広める)	B		
		生徒指導への貢献 ③④⑨⑩ ・まつりつくばの巡視、列車添乗指導、さわやかマナーアップキャンペーンへの参加を通じて生徒の生活指導を行うと共に、本校の地域社会におけるイメージアップを図る。	B		
		学年委員会行事の実施 ⑨⑩ ・走歩大会への保護者の参加を通じて、学校行事をPRし、親子間・委員相互の人間関係の円滑化を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

	保護者との連携	報告、連絡、相談の徹底。(文書、電話、メール等) ④⑨⑩	A	
		密な意見交換(本部役員会、委員会、行事参加等を通じて) ⑨	A	
校務分掌 (情報管理部)	ICTを利用した授業の推進	ICT機器、コンピュータの整備、システムの活用に関する研修会を行う。①②	B	B
		職員のICTスキルアップを促進する。①②⑬	B	
	公式サイトによる情報公開の推進	公式サイトの作成を各部署に分散し、サイトを組織的に運営する。④⑥⑨⑩	B	
		公式サイトの更新回数を増やし、情報公開に努める。④⑥⑨⑩	A	
	教育支援システムの維持管理と活用	教育支援システムの円滑な運営と活用ができるように計画し実施する。①②⑬	B	
		資格・検定の管理や統計処理を行う。①②⑧⑫	B	
校内LANの整備とその運用の活性化	情報機器、校内ネットワークの整備を行い、有効利用を図る。①②⑫⑬	A		
		個人情報保護やウイルス対策など、セキュリティ対策を実施する。⑪⑫	A	

学年指導 (第1学年)	基本的生活習慣の確立	頭髮・服装等の身だしなみに注意し、制服や実習服の正しい着用を指導する。③	B	B
		時間厳守、教室の美化に努め学習環境を整える。③⑪⑫	A	
		「imamirai手帳」を活用し、メモを取る習慣の定着を図る。③⑦	B	
	基礎学力の向上と資格取得	「スタディプログラム」や「Step診断」を活用し、基礎学力の定着を図る。①⑦	B	
		資格の情報を与え、資格取得を積極的に促すとともに、補習等を実施する。②⑦	B	
		タブレット端末の利用促進に務める。①④	B	
	保護者との連携	保護者との連携を密にし、生徒の様子について共通理解を図る。④⑨	A	
		「学年便り」等を通して、保護者への積極的な情報発信に努める。⑨	B	
	進路実現への意識向上	進路ガイダンスや見学会等を通して、進路についての意識を向上させるとともに、自分の将来を考えさせる。⑦⑧	A	
		面談等を通して生徒理解に努め、進路について考えさせる。⑦	A	
学年指導 (第2学年)	保護者との連携	保護者への細やかな対応、生徒の様子について共通理解を図る。⑨⑩	A	B
		学年便り等を通して、保護者への積極的な情報発信に努める。⑨	B	
	基本的生活習慣の確立	頭髮・服装等の身だしなみに注意し、制服や実習服の正しい着用を指導する。③	B	
		時間厳守、教室の美化に努め良好な学習環境をつくる。③⑪	B	
		「imamirai手帳」を活用し、メモを取る習慣の定着を図る。③⑦	B	
	学力向上と資格取得	「スタディプログラム」の活用や「Step診断」を行い、基礎学力の定着を図る。①⑦	A	
		資格の情報を与え、資格取得を積極的に促すとともに、補習等を実施する。②⑦	A	
	進路実現への意識向上	進路ガイダンスや見学会等を通して、生徒が主体的に進路を選択決定できるよう情報提供に努め、自分の将来を考えさせる。⑦⑧	B	
		面談等を通して生徒理解に努め、進路選択に向けて考えさせる。⑦⑨	A	

・生徒のBYOD 端末の利用促進、セキュリティ意識向上  
 ・電子黒板、プロジェクタの利用促進及び、デジタル採点システム等の ICT の活用をすることにより、先生方の負担を減らす

・進路ガイダンス等を通して進路選択への意識づけを深めさせる。  
 ・保護者への情報発信を増やす。  
 ・修学旅行成功への準備をする。  
 ・タブレット活用の定着を図る。  
 ・基礎学力の定着を図る。

・進路決定にあたり、保護者との連携・情報共有を密にする。  
 ・高校生活の思い出に残る学校行事の企画を検討する。  
 ・あいさつ、身だしなみの指導を強化する。  
 ・進路に向けてSPI試験に対応できる基礎学力の向上に努める。

別紙様式 2 (高)

	修学旅行の充実	集団行動や生活、他者と触れ合い交流をする中で、生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る。③	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス等を通して生徒・保護者が自ら進路決定できるような情報の提供に努める。</li> <li>・高校生活の思い出に残る学年行事を企画する。</li> </ul>
		平和学習や体験学習を通して、沖縄の歴史や文化を学ぶ。③④	C		
学年指導 (第3学年)	進路希望の実現	進路ガイダンスや面接指導、HR活動における進路の諸活動を通して、生徒が主体的な進路選択ができるような情報の提供、環境づくりに努める。⑦⑧	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭髪や制服の正しい着用と指導法</li> <li>・学年団と進路指導部の情報共有、連携とその手法</li> <li>・マナトレの在り方</li> <li>・保護者への積極的な情報発信</li> </ul>
		進路活動を円滑に行うための、保護者対象説明会を開催する。保護者との連携をとりながら、細かな支援・アドバイスを行う。⑦⑧	A		
	基礎学力の向上	S P I や一般常識試験等を行い、基礎学力の一層の定着を図る。①②	B		
		資格取得を積極的に促す。②	B		
	基本的な生活習慣の確立	学年集会、HR活動、服装頭髪指導などを通し基本的な生活習慣を確立させ、マナーや規範意識を身につけさせる。③	B		
		「imamirai手帳」を活用し、メモを取る習慣の定着を図る。③⑦	B		
	生徒指導の徹底	進路活動を意識した頭髪や制服、実習服の正しい着用を指導する。③	B		
		時間厳守、教室の美化に努め良好な学習環境をつくる。③⑩	B		
保護者との連携	保護者への細やかな対応、生徒の様子について共通理解を図る。⑨	A			
	学年便り等を通して、保護者への積極的な情報発信に努める。⑨⑩	C			

※ 評価規準 A:よくできた B:普通 C:やや不足 D:不足